

鉄斎の器玩

— 名工と遊ぶ —



66 仿銅器式桐香炉
木器：中島菊齋作
銀火舎：三代秦蔵六作

2011年1月8日(土)～3月27日(日)

前期：1月8日(土)～2月13日(日)

後期：2月16日(水)～3月27日(日)

10時～16時 月曜日休館

但し1月10日・3月21日は開館、翌日休館

2月14日・15日は展示替のため休館



21 竹石絵染付水注
四代清水六兵衛作



78 高遊外詩画染付菓子鉢
初代諏訪蘇山作

作品はすべて鉄斎の筆になる

富岡鉄斎（1836～1924）は今や文人画の巨匠として不動の地位を得、その作品は高く評価されている。生涯をかけて文人の理想とする明の董其昌のことは、「万巻の書を読み万里の路を行く」を実践した鉄斎は、万余の書画作品を遺した。それらにはことごとく典拠があり、読破した万巻の書を出典とする賛が書せられるのが常であった。そうした書画作品とは別に我々が「鉄斎の器玩」と呼称する分野がある。

器玩とは身辺に置いて日々賞玩し愛でる器や工芸品を指す言葉である。

鉄斎の器玩

では鉄斎の器玩とはいったいどのようなものであろうか。リストを一覧すると鉄斎30歳代初めから89歳の最晩年まで、陶工や指物師などの制作した陶磁器や竹工品、木工品などに絵付けをし、文字や詩文を書しあるいは下絵を描いた道具類のほか、鉄斎自ら作ったもの、妻春子の作った茶碗などに絵付けをしたものなどであることがわかる。それらは煎茶道具が最も多く、抹茶道具、文房具、筆洗、絵具皿、火鉢などがあり多岐に亘っている。

また器玩の作者には後で紹介する陶工初代浅見五郎介初め、三代・四代・五代清水六兵衛、初代諏訪蘇山など、また指物師中島菊斎等々、当時京都大阪で活躍していた錚々たる名工の名が見える。鉄斎の器玩とは鉄斎自身が絵付けをし、書をしたためた器物全体を指している言葉である。

鉄斎が薫陶を受け生涯の恩人として尊崇した女流歌人で、蓮月焼でも知られる大田垣蓮月のもとに学僕として住み込み、蓮月の作陶の手伝いをしたことはよく知られている。勤王家でもあった蓮月の下には多くの志士や文人たちが集まって煎茶を楽しんでいた。また鉄斎がともに国事に奔走した人々の多くもまた煎茶を嗜んでいた。こうした環境のもとで鉄斎は煎茶に親しみ、傾倒していった。20歳代に書かれた鉄斎の筆録「松涛余韻」、「画餅集」、「鄔正」、「無題詩文集」には自らの作陶や蓮月についての一文や、『茶経』を著した唐の陸羽や「茶歌」で有名な玉川子廬全、日本の煎茶の祖売茶翁高遊外のほか、煎茶を主題にした詩が多く見られる。また慶応3年（1867）32歳の鉄斎は煎茶書『鉄荘茶譜』を上梓した。煎茶への傾倒と研究はこの後ますます深まり、陸羽、廬全や煎茶の詩を多く詠んだ宋の蘇東坡、売茶翁などを主題にした様々な書画作品となって結実した。それは器玩においても同様で『売茶翁茶器図』に所載の売茶翁所持の煎茶具を模し、『売茶翁偈語』からも多くの詩を選び茶盒（No.20）や鉢（No.54、78）などに書すに至った。鉄斎の器玩に煎茶道具の多い所以である。

庸軒流の茶道を学んでいた鉄斎の妻春子の作った茶碗のほか、炬縁、釜など抹茶道具が見られるのは、鉄斎の住んでいた室町一条あたりが千家十職の多くが居を構えていた所であったこととも無縁ではなかったであろう。

鉄斎の器玩は歳とともにますますその種類が変化に富んでくる。それは鉄斎の交友関係や興味の対象が広く多方面にわたって来たことを意味すると思われる。

鉄斎の器玩を作った名工たち

鉄斎の器玩の制作者たちのうち、最初に名があがるのは陶工初代浅見五郎介（1829～1895）である。五郎介は摂津国出身で樋口五郎助といい、京都浅見家の養子となった。二代清水六兵衛の門に入って作陶を学び、嘉永5年（1852）に五条坂に開窯した。主に煎茶器や酒器、文房具などを制作したという。鉄斎より7歳年長の五郎介は文人との交友も盛んであったといい、大田垣蓮月とも交友を持ち、合作になる煎茶碗も遺されている。鉄斎も蓮月を通じて五郎介と知り合い、多くの合作を生むようになったのであろう。五郎介の堂々とした作風の大きな鼎や火鉢をはじめ、汎蓋や吸物椀（No.1～5）に鉄斎は存分に字を書し、絵を描いた。文人鉄斎の姿を彷彿とさせる作品群である。

挿図の写真は京都室町一条の鉄斎宅の庭で孫の弥生と冬野を撮ったものであるが、弥生の右にある大きな灯籠は初代五郎介の作である。五郎介は京都小御所に二基の大雪見灯籠を焼成した三代清水六兵衛にも陶工を学んだといわれ、この大灯籠は六兵衛の影響を受けて作られたものと思われる。鉄斎と五郎介の親交を物語る灯籠である。

次にあがる陶工は三代・四代・五代清水六兵衛である。特に四代六兵衛（1848～1929）とは気持ちが通じあったようで親しく、六兵衛の作る豪快な花生には力強い手彫りで詩を彫り込んだ（No.68）。瀟洒で温和な風を持つ水注や急須には竹



鉄斎宅庭にて(右から鉄斎孫弥生、冬野)

石や人物を描き、それは美しい染め付けの作品となった (No.21、27)。明治30年 (1897) 6月に行われた初代六兵衛愚斎百年忌に鉄斎は参詣していることから交誼を推測することができる。大正9年 (1920)、四代六兵衛の訃報を受けた鉄斎は、その死を悼んで「六翁が阿弥陀参りにかへらぬは そのたのしみを思ひこそやれ」と詠み、弔辞としたほどであった。三代にわたる清水六兵衛との交友は多彩な合作による名品を生みだしていった。

鉄斎の晩年に親交を結んだのは初代諏訪蘇山 (1851~1922) であった。蘇山は金沢に生まれ東京で陶画を学び製陶の後、金沢で製陶場に勤め明治40年 (1907) に五条坂に開窯した。大正6年 (1917) に共に帝室技芸員を拝命したことにより交友がはじまり、晩年の鉄斎にとって芸術を語り合える数少ない友人の一人となった。鉄斎よりはるかに若い蘇山が大正11年 (1922) 2月に他界した時には、高齢をおして葬儀に赴き友人総代として弔辞を読んだ。鉄斎の落胆と蘇山を悼む気持ちが察せられる。鉄斎は贈られた二組の絵具皿の一方に書庫魁星閣を描き (No.76)、もう一方には魁星図を描いた (No.77)。これらの絵具皿は日々実際に使用されていたもので、今も遺る鮮やかな岩絵の具の色はカラリスト鉄斎の制作する姿を偲ばせるものである。青磁を得意とする蘇山が贈った美しい《青磁筆洗》(No.135) を鉄斎は愛用した。

鉄斎の器玩のうち最も多くの合作がみられるのは指物師中島菊齋 (1874~1935) である。菊齋についてはその詳細を「鉄斎の器玩一匠との共演一」展 (2008年) においてまとめることができた。名指物師として鉄斎の要望に応え、器局や炉屏、茶壺、文庫、文台、香炉、香盆を作り、鉄斎はそれらに豊かな彩色を施して宇治の景 (No.23) や四君子 (No.37)、長寿のシンボルである緑毛亀 (No.86) などを描いた。菊齋の指物に向き合う時、鉄斎の創作意欲は大いに触発され、その感性が存分に発揮されたことは間違いない。こと指物に関しては本来工芸品の持つ用の美などはほとんど鉄斎の脳裏からは離れ、立体のおもしろさに引き込まれたことがよくわかる。それらは鑑賞の具となって我々を楽しませてくれている。

以上の名工のほかにも陶工では四代・六代高橋道八、初代・二代三浦竹泉、十七代雲林院宝山、指物師では三代一瀬小兵衛、三代三好木屑、金工では二代・三代秦蔵六、釜師では三代高木治良兵衛、七宝の並河靖之などの名がある。彼等の中には当時盛んに行われた博覧会においても活躍していたメンバーもいて、新進の気風に富んだ京都で伝統の上にさらに自らの技を磨き築いた気鋭の名工・芸術家たちであった。

また千家十職の釜師大西清右衛門、金物師十代中川浄益、塗師中村宗哲、焼物師永楽善五郎との合作の外、指物師十一代駒沢利斎、竹細工・柄杓師十一代黒田正玄等との交友も遺された書簡などから次第に明らかになってきた。今後新たに合作の作品が発見されることも期待できる。

以上のような名工が制作した形ある作品に向き合った鉄斎は、独自の創意や発想と感性によって筆管を揮い、最も制約された器物において自らの心を解放し名工との合作に心を遊ばせた。こうした器玩にも万巻の書を読破した鉄斎の該博な知識は遺憾なく発揮され、大胆にまた繊細に、筆を通して紛うことなく鉄斎を知の遊びの世界に導いている。そして我々観るものをもまた高邁で味わい深い遊びの境地へと誘ってくれるのである。「鉄斎の器玩」からは鉄斎と名工との交友の機微が感じられ、名工の技と鉄斎の感性が相和し織りなした独自の芸術世界が展開されていることがわかる。

今回は鉄斎と名工との合作のみならず、鉄斎手造の香合、妻春子の作った茶碗などに絵付けをしたほのほのとした夫婦合作の作品を加え、バラエティに富んだ「鉄斎の器玩」をお楽しみいただけるようにした。さらに新春を寿ぐに相応しい書画作品を併せてご覧いただく。

また鉄斎が愛蔵し清玩した大田垣蓮月の作品や親交を結んだ初代諏訪蘇山が鉄斎に贈った筆洗などのほか、制作に使用された硯や筆、あるいは鉄斎が筆を走らせた外套 (裏) や布団、日々使用した烏帽子、杖、補聴器なども併せて展示する。これらにより鉄斎の生活の一端を親しく想像し感じていただけるものと思う。(奥田素子)



87 四君子絵桐印筆筒 中島菊齋作

《出品目録》

作品はすべて鉄斎の筆になり、制作年・年齢はそれによる

番号	名 称	作 者	制 作 年	年 齢	法 量	員 数	
1	寿字陶鼎	初代 浅見五郎介	慶応3	1867	32	22.5×24.4×24.4	一口
2	人物絵染付火鉢	初代 浅見五郎介	慶応3	1867	32	23.4×22.9×22.9	一口
3	歳寒二友図瓶懸火炉	初代 浅見五郎介	慶応3	1867	32	32.0×23.0×23.0	一基
4	四君子図汎蓋	初代 浅見五郎介	慶応4	1868	33	3.5×7.8×7.8他	四客
5	名花十友図染付吸物碗	初代 浅見五郎介			30代	各 7.8×8.6×8.6	十客
6	磁筆洗 銘松風水月	三代 清水六兵衛	明治15	1882	47	8.5×16.0×14.8	一口
7	捏焼香炉	富岡春子			50代	各 7.5×12.5×12.5	一基
8	瓢德利 銘雖小		明治33	1900	65	15.0×8.0×8.0	一口
9	七宝斗式筆洗	並河靖之	明治33	1900	65	18.0×25.0×25.0	一口
10	十友図菓子盆				60代	各 1.3×13.7×13.7	十客
11	煎茶碗	富岡春子			60代	各 3.8×6.4×6.4	五客
12	狸絵捏茶碗	富岡春子			60代	6.0×10.0×10.0	一口
13	仿漢鼎式東山窯香炉	四代 高橋道八			60代	13.5×11.2×8.0	一基
14	羅漢図磁鉢	四代 清水六兵衛			60代	9.6×18.2×18.2	一口
15	福祿寿図花瓶	六代 高橋道八	明治40	1907	72	29.5×18.4×18.4	一口
16	狸香合	富岡鉄斎	明治43	1910	75	6.6×6.6×6.6	一合
17	詩書花尊	四代 清水六兵衛	大正1	1912	77	42.0×19.0×19.0	一口
18	喜寿書沙鍋	深草平右衛門	大正1	1912	77	7.1×35.9×35.9	一口
19	方盆		大正2	1913	78	3.5×27.0×27.0	一枚
20	京八景図茶盒	三代 一瀬小兵衛	大正3	1914	79	各11.3×5.0×5.0	一雙
21	竹石絵染付水注	四代 清水六兵衛	大正3	1914	79	17.1×19.8×11.9	一口
22	鼎式香炉	陶:初代 三浦竹泉 銀火舎:二代 秦蔵六	大正3	1914	79	9.0×9.8×9.8	一基
23	菟道真景詩画器局	中島菊斎			70代	47.5×45.3×29.0	一基
24	菊絵茶碗	四代 清水六兵衛			70代	5.5×13.7×13.7	一口
25	軸首	富岡鉄斎			70代	各 3.2×3.0×3.0	二組
26	仁者寿字磁印	富岡鉄斎			70代	4.7×5.3×5.3	一顆
27	人物絵染付急須	四代 清水六兵衛			70代	7.6×10.5×11.8	一口
28	煎茶碗	富岡春子			70代	各 4.7×6.0×6.0	五客
29	俵香合	富岡鉄斎			70代	4.2×5.8×4.2	一合
30	寿字オランダ写并鉢	四代 清水六兵衛			70代	9.6×23.4×23.4	一口
31	富岳図茶碗				70代	7.5×11.0×11.0	一口
32	香合	初代 三浦竹泉			70代	3.8×6.1×6.1	一合
33	亀絵茶碗	富岡春子			70代	6.6×10.8×10.8	一口
34	手提香炉				70代	14.8×13.3×13.3	一基
35	お多福図茶吧		大正4	1915	80	24.0×22.0	一枚
36	蟹絵炉屏	中島菊斎	大正4	1915	80	41.0×60.0×29.0	一隻
37	四君子絵桐茶壺	中島菊斎	大正4	1915	80	各11.4×7.8×7.8	一雙
38	松竹梅墨芝絵料紙文庫	中島菊斎	大正4	1915	80	硯箱: 5.4×22.7×25.9 文庫: 13.7×34.0×41.5	一組
39	万歳書茶碗	初代 三浦竹泉	大正4	1915	80	各 4.7×8.0×8.0	十客
40	木製聯		大正4	1915	80	各 85.5×18.0	一對
41	金剛杵墨	鈴木梅仙			80代	7.1×3.2	一挺
42	中国製小囊				80代	11.5×14.0×7.5	一口
43	茅屋香炉	富岡鉄斎			80代	6.3×9.0×6.7	一基
44	吉野山絵茶碗	英昌堂泰山			80代	8.6×12.7×12.7	一口
45	朱竹絵盆				80代	1.5×23.8×17.2	一枚
46	蘭絵団扇				80代	33.5×21.5	一本
47	手製蘭絵団扇				80代	40.8×26.2	一本
48	清風書壳茶式茶旗				80代	53.0×40.5	一枚
49	円形茶壺	陶:二代 三浦竹泉 錫:二代 秦蔵六	大正5	1916	81	各10.0×5.3×5.3	一雙
50	歳寒三友図炉屏		大正5	1916	81	31.5×72.2×72.2	一隻
51	松芝不老絵文台	中島菊斎	大正5	1916	81	10.3×57.5×35.8	一台
52	琉球蒲葵扇		大正5	1916	81	各 40.5×27.5	一對
53	茶心壺	十七代 雲林院宝山	大正6	1917	82	8.2×6.3×6.3	一口
54	通天煮茶詩画磁鉢	二代 三浦竹泉	大正6	1917	82	8.0×8.5×8.5	一口
55	硯箱	中島菊斎	大正6	1917	82	12.4×32.2×23.1	一合

56	梅花式磁鉢	富岡春子	大正 6	1917	82	5.5×10.2×10.2	一口
57	魚形巾台	富岡鉄斎	大正 7	1918	83	2.8×10.9× 5.6	一個
58	茅屋香炉	富岡春子	大正 7	1918	83	7.8×11.0× 6.5	一基
59	松木方盆	中島菊斎	大正 7	1918	83	3.5×31.8×31.8	一枚
60	団扇		大正 7	1918	83	各 39.3× 21.3	五本
61	菊香合	富岡春子	大正 8	1919	84	3.5× 5.5× 5.5	一合
62	蝸牛廬図急須	二代 三浦竹泉	大正 8	1919	84	7.0×10.2× 6.5	一口
63	古桐炉縁	杉山芦流	大正 8	1919	84	6.6×42.6×42.6	一基
64	竹挿花器 銘虚心抱節		大正 8	1919	84	39.7×16.2×16.8	一口
65	田家早梅図茶碗	富岡春子	大正 8	1919	84	6.2×11.8×11.8	一口
66	仿銅器式桐香炉	木器:中島菊斎 銀火舎:三代 秦蔵六	大正 8	1919	84	7.2×10.2× 7.8	一基
67	仿壳茶式煎茶碗 木米隔栖図竹茶碗筒	二代 三浦竹泉	大正 8	1919	84	各 3.7× 6.2× 6.2	六客
68	詩書手彫花生	四代 清水六兵衛	大正 9	1920	85	40.3×18.5×18.5	一口
69	双寿千年絵染付煎茶碗	五代 清水六兵衛	大正 9	1920	85	各 4.5× 6.7× 6.7	五客
70	狸香合	富岡鉄斎	大正 9	1920	85	6.2× 6.5× 5.8	一合
71	蓮月幽居図四方釜 大田垣蓮月歌賛	三代 高木治良兵衛	大正 9	1920	85	28.4×22.7×20.3	一口
72	磁印香合	富岡鉄斎	大正 9	1920	85	4.5× 5.3× 5.3	一合
73	富士山形香炉	初代 諏訪蘇山	大正 9	1920	85頃	18.5×35.0×24.0	一基
74	雕木蕉葉聯		大正 9	1920	85	各 63.5× 26.5	一對
75	竹筍式手捏挿花瓶	富岡鉄斎	大正 9	1920	85	15.7× 7.5× 7.5	一口
76	魁星閣図絵具皿 十二枚重	瓷器:初代 諏訪蘇山 木器:中島菊斎	大正10	1921	86	23.0×15.5×15.5	一組
77	魁星図絵具皿 十一枚重	瓷器:初代 諏訪蘇山 木器:中島菊斎	大正10	1921	86	19.0×15.5×15.5	一組
78	高遊外詩画染付菓子鉢	初代 諏訪蘇山	大正10	1921	86	8.8×18.4×18.4	一口
79	炭斗		大正10	1921	86	19.0×21.5×20.0	一口
80	蓮絵茶碗	英昌堂泰山	大正10	1921	86	8.7×12.1×12.1	一口
81	方竹挿花器	三代 三好木屑	大正10	1921	86	35.5×11.8× 9.5	一口
82	蘭菊図器局		大正10	1921	86	36.3×38.5×24.5	一基
83	扇式菓子器	中島菊斎	大正11	1922	87	7.5×32.5×27.4	一口
84	白泥湯罐	初代 諏訪蘇山	大正11	1922	87	13.2×13.5×11.6	一口
85	箸餅	二代 三浦竹泉	大正11	1922	87	7.2× 4.8× 4.8	一口
86	亀絵桐雕盆	中島菊斎	大正12	1923	88	2.5×27.5×47.0	一枚
87	四君子絵桐印筆筒	中島菊斎	大正12	1923	88	39.5×40.8×28.5	一基
88	青華香合	二代 諏訪蘇山	大正12	1923	88	3.2× 6.7× 6.7	一合
89	松絵釜 銘松風	三代 高木治良兵衛	大正12	1923	88	20.6×23.4×23.4	一口
90	鴨川眺望図煎茶椀	富岡春子	大正12	1923	88	各 4.3× 7.4× 7.4	五客
91	蘭絵丸盆		大正12	1923	88	3.0×37.3×37.3	一枚
92	清風書壳茶式大茶旗		大正13	1924	89	176.0× 48.0	一旒
93	宝珠絵植	中島菊斎	大正13	1924	89	6.6× 7.7×14.4	一個
94	赤松扇形菓子器	中島菊斎	大正13	1924	89	6.2×28.0×36.0	一口
95	匏菓子器	豊斎	大正13	1924	89	17.0×21.5×21.5	一口
96	仿銅器式桐香炉	中島菊斎	大正13	1924	89	24.0×25.0×20.0	一基
97	蘭絵香盆	中島菊斎	大正13	1924	89	4.2×47.5×36.0	一枚

[絵画・書]

番号	名 称	制 作 年	年 齡	法 量	材質・彩色	員 数	
98	煎茶図 大田垣蓮月歌賛	慶応 2	1866	31	129.0× 28.7	紙本 墨画	一 幅
99	愜趣帖・清娛帖	慶応 3	1867	32	各 8.8× 13.4	紙本 淡彩	二 帖
100	間有趣帖	慶応 4	1868	33	各 13.5× 19.8	紙本 淡彩	一 帖
101	花瓶図 大田垣蓮月歌賛	明治 2	1869	34	135.5× 30.6	紙本 墨画	一 幅
102	紙雛図			30代	120.0× 49.5	紙本 淡彩	一 幅
103	粗果野菜図			30代	174.3× 59.0	紙本 着色	一 幅
104	芳山春暁図	明治 8	1875	40	17.8×149.5	紙本 着色	一 卷
105	おどけ絵	明治34	1901	66	各 12.0× 16.3	紙本淡彩・墨画	一 帖
106	十二生肖図卷			60代	27.2×136.3	紙本 着色	一 卷
107	扇図			60代	29.3× 58.7	紙本 墨画	一 面
108	盆松併警語			60代	54.5× 23.0	絹本 淡彩	一 幅

109	阿多福図	明治39	1906	71	141.2× 35.7	絹本 着色	一	幅
110	蓬莱傳境図	明治45	1912	77	146.6× 49.2	絹本 着色	一	幅
111	春風百事宜図	明治45	1912	77	132.0× 33.2	紙本 着色	一	幅
112	陶淵明図			70代	135.2× 33.8	紙本 淡彩	一	幅
113	桜花瓶図			70代	17.6× 48.0	紙本金地着色	一本(扇子)	
114	扇面梅溪図詩合装			70代	各 17.7× 52.8	紙本淡彩・墨書	一	幅
115	奉歳徳神図	大正 4	1915	80	78.3× 63.0	紙本 墨画	一	面
116	萬歳書	大正 4	1915	80	132.4× 38.8	紙本 墨書	一	幅
117	多福多寿多男子図	大正 5	1916	81	17.4× 53.1	紙本 着色	一面(扇子)	
118	祝慶扇 松林図・梅林図	大正 5	1916	81	各 16.2× 48.5	紙本金地着色	二本(扇子)	
119	大國大神神影	大正 8	1919	84	134.0× 32.1	紙本 墨画	一	幅
120	懸崖飛泉図	大正 8	1919	84	132.8× 32.5	紙本 淡彩	一	幅
121	遊華胥国図	大正10	1921	86	133.5× 32.4	紙本 淡彩	一	幅
122	事々大吉図	大正11	1922	87	132.2× 32.0	紙本 淡彩	一	幅
123	孝感動天図	大正11	1922	87	132.5× 33.8	紙本 淡彩	一	幅
124	宝来船図	大正12	1923	88	132.3× 32.0	紙本 墨画	一	幅
125	南山之寿図	大正12	1923	88	146.0× 40.2	紙本 淡彩	一	幅
126	寿老人図	大正13	1924	89	130.3× 32.7	紙本 淡彩	一	幅
127	新年言志図	大正13	1924	89	47.0× 57.5	絹本 着色	一	幅

[遺愛品]

番号	名 称	作 者	制 作 年		法 量	員数
128	陶瓢	大田垣蓮月	明治 3	1870	18.6×10.2×10.2	一口
129	急須(松笠摘)	大田垣蓮月	明治 8	1875	5.3× 8.5× 8.5	一口
130	德利	大田垣蓮月	江戸末-明治初		16.8×14.7×14.7	一口
131	藤娘図德利	大田垣蓮月	江戸末-明治初		12.3× 7.5× 7.5	一口
132	大急須	大田垣蓮月	江戸末-明治初		11.2×20.1×16.9	一口
133	秋草図煎茶碗 茶碗筒 鉄斎絵	大田垣蓮月	江戸末-明治初 大正11	1922	茶碗:各 3.6× 5.8× 5.8 筒: 12.7× 7.9× 7.9	五客 一口
134	青磁筆洗	初代 諏訪蘇山	大正10	1921	13.6×16.7×24.7	一口
135	赤絵轆轤	初代 諏訪蘇山	大正10	1921	11.5× 4.3× 4.3	一口
136	磁硯 銘撥雲	初代 諏訪蘇山	大正12	1923	4.0×16.9×12.1	一面
外套(裏)・布団・烏帽子・杖・補聴器・バスケット・眼鏡・虫眼鏡・枕形鞆・平形鞆など						

・出品作品は期間中下記の通り2回にかけて展示します。但し一部作品は重複することがあります。
前期 1月8日(土)~2月13日(日) 後期 2月16日(水)~3月27日(日)

・下記の日程で学芸員による展示説明会を行います。
1月22日・2月5日・3月5日・3月19日 各土曜日午後1時30分より

・次回展覧会 「鉄斎 ― 中国憧憬 ―」 平成23年4月5日(火)~6月12日(日)

清荒神清澄寺 鉄 斎 美 術 館 〒665-0837 宝塚市米谷字清シ一番地
TEL (0797) 84-9600
FAX (0797) 84-6699
<http://www.kiyoshikojin.or.jp>

平成23年1月5日 印施